



第 55 回 住総研シンポジウム

それでも人は他者と空間をシェアする

2020 年度 重点テーマ連続シンポジウム
「シェアが描く住まいの未来」 vol.2

2020 年 12 月 3 日 (木) 13:30~17:00
建築会館ホール

主催

一般財団法人 住総研

一般財団法人 住総研について

■沿革

当財団は、故清水康雄（当時清水建設社長）の発起により、昭和23（1948）年に東京都の認可を受け「財団法人 新住宅普及会」として設立されました。昭和63(1988)年には、本格化した研究主体の活動実態に照らし、「財団法人 住宅総合研究財団」と名称変更、平成23(2011)年7月1日「一般財団法人 住総研」として内閣府より認可され、活動を続けています。平成30（2018）年に創立70周年を迎えました。

■事業目的

住総研は、住まいに関する総合的研究・実践並びに人材育成を推進し、その成果を広く社会に還元し、もって住生活の向上に資することを目的に活動をしています。

■事業内容

●助成事業

- ・研究・実践助成：住関連分野の研究者に対し助成。公募
- ・出版助成：住関連分野の出版に対し助成。公募
- ・住教育授業助成：小中高の住教育授業に対し助成。公募

●顕彰事業

- ・住総研 清水康雄賞：優れた研究成果をあげ今後活躍が期待される研究者を表彰
- ・住総研 研究・実践選奨：研究・実践助成を受けた中から優れたものを表彰
- ・住総研 博士論文賞：若手研究者の優秀な博士論文を表彰

●調査・研究事業

- ・2020年度重点テーマ 「シェアが描く住まいの未来」研究
- ・2021年度重点テーマ 「あこがれの住まいと暮らし」研究
- ・2022年度重点テーマ 「住宅の省エネ化推進のための情報発信」研究

●シンポジウム・フォーラム

- ・住総研シンポジウム：年度重点テーマに基づくシンポジウム。年2回程度開催
- ・すまいろんシンポジウム：すまいろんのテーマで、年2回程度開催
- ・出版記念フォーラム：住総研住まい読本の出版にあわせて適宜開催

●情報発信・出版

- ・機関誌『すまいろん』：住まいに関する諸情報を提供。年2回発行
- ・『住総研 住まい読本』：住まいをめぐる諸問題について取り組んだ成果、提言などを出版
- ・『住総研 研究論文集・実践研究報告集』：研究助成を受け提出された論文を毎年出版
- ・メルマガ：住まいに関する情報を随時発信。Facebook, Twitterでも発信

●図書室

- ・「住まい」に関連する書籍3万冊蔵書の専門図書室。

住総研重点テーマ

2010年度より、研究・実践活動の効率化と成果の集約化を図るため、各年度に取り組むべき重点テーマを定め、その年度に開催されるシンポジウムをはじめ、研究・実践助成の選定及び諸活動に反映しております。

1) 各年度の重点テーマ

2018年度：『マンション』の持続可能性を問う

2019年度：おとなのための住まい学

2020年度：シェアが描く住まいの未来

2021年度：あこがれの住まいと暮らし

2022年度：住宅の省エネ化推進のための情報発信

2) 今年度の住総研シンポジウム 重点テーマ「シェアが描く住まいの未来」

「シェアが描く住まいの未来」研究委員会 委員五十音順

委員長 岡部 明子（東京大学大学院 教授）

委員 小川 さやか（立命館大学 教授）

門脇 耕三（明治大学 准教授）

山道 拓人（ツバメアーキテクト 代表取締役）

鈴木 亮平（NPO 法人 urban design partners balloon 理事長）

前田 昌弘（京都府立大学大学院 准教授）

今年度の連続シンポジウム（全2回）

第54回住総研シンポジウム 2020年8月1日（土）（ZOOMにてオンライン配信）

「ウィズコロナ時代のシェアと住まい」

第55回住総研シンポジウム 2020年12月3日（木）建築会館ホール

「それでも人は他者と空間をシェアする」

それでも人は他者と空間をシェアする

主題解説

岡部明子

(東京大学大学院教授／「シェアが描く住まいの未来」研究委員会委員長)

ひとり暮らしより楽しそうで割安なら一石二鳥と考え、気楽に住まいをシェアする。あるいは、子どもが巣立って余裕ができて、専用住宅だった家の一室をギャラリーやカフェなどにして、住まいとシェアする。日本では、プライバシーが確保されていることが当然の時代になって、人間的な居住が満たされた上で、シェアにさらなる豊かな暮らしを希求するようになった。

他方、途上国大都市のスラムでは、どこの家も知人や親戚と住まいをシェアしている。また、トイレやキッチン、洗濯場など住宅機能の一部を複数家族で否応なしにシェアすることを強いられている。狭い家は、商品やお惣菜をつくる仕事場でもあり、住まいとシェアしている。シェアなくして住まいはなく、物理的に空間をシェアせずして生きていけない。

物理的に空間をシェアすることは、ある人たちにとっては贅沢であり、またある人たちにとっては生きていくのに不可欠なものだったが、コロナ禍で一転、リスクになった。さしあたり、選択肢の多い人たちは、シェアを最大限ヴァーチャル空間に移し、物理的な空間シェアを最小化することでリスク低減する行動がとれる。そうした選択肢のない人たちとの格差がより強く露わになっている。

建築をデザインする立場から「住まい」に潤いを与えるものとして盛んに提案されてきたシェアが感染リスクと表裏一体であることを意識させられた今、人びとがそれでもシェアに求めるものが見えてきたともいえる。

本シンポジウムではまず、建築の分野で試みられているさまざまなシェアの意味を改めて考える。そして、人類学的にシェアとは何かを問いかけ、シェアが住まいの格差を助長し続けるのか、あるいは、住まいをめぐる実践が格差是正にどうすれば役割を果たせるのか、その未来を描き出していきたい。

「それでも人は他者と空間をシェアする」

プログラム

13:30 開会

開会挨拶 道江紳一（一般財団法人 住総研 専務理事）

趣旨説明 岡部明子（東京大学大学院 教授）

第1部 講演

「share」

猪熊 純（株式会社成瀬・猪熊建築設計事務所）

「シェアと災害」

前田昌弘（京都府立大学大学院 准教授）

「戦後のすまいに見るシェアの展開と課題」

門脇耕三（明治大学 准教授）「究極の空間シェア」

「シェアの実践/PLAT295」

鈴木亮平（NPO 法人 urban design partners balloon 理事長）

山道拓人（株式会社ツバメアーキテクト 代表取締役）

14:45 休憩

14:55 第2部 基調講演

「人はシェアする生き物」

小川さやか（立命館大学 教授）

15:35 休憩

15:45 第3部 討論

司会

岡部 明子（東京大学大学院 教授）

パネリスト

小川さやか（立命館大学 教授）

猪熊 純（株式会社成瀬・猪熊建築設計事務所）

前田 昌弘（京都府立大学大学院 准教授）

門脇 耕三（明治大学 准教授）

鈴木 亮平（特定非営利活動法人 urban design partners balloon 理事長）

山道 拓人（株式会社ツバメアーキテクト 代表取締役）

17:00 閉会

プロフィール

(講演順)

〈主題解説〉

岡部明子

東京大学大学院 教授

東京大学大学院新領域創成科学研究科教授。環境学博士（2005年）。現在は、途上国の都市インフォーマル地区の住人たちと実践を通して地球環境問題を問いかけている。他方、日本では、古民家を拠点に建築を哲学する実践を学生たちや OBOG と展開、「ゴンジロウ 塾」として活動している。著書に、『高密度化するメガシティ』（編著、東京大学出版会、2017）、『バルセロナ』（中公新書、2010）、『サステイナブルシティーEUの地域・環境戦略』（学芸出版社、2003）ほか。

〈講演〉

猪熊 純

株式会社成瀬・猪熊建築設計事務所／東京都立大学 助教

1977年神奈川県生まれ。2004年東京大学大学院修士課程修了。2006年まで千葉学建築計画事務所勤務。2007年成瀬・猪熊建築設計事務所共同設立。2008年より現職。

代表作に「LT城西」「柏の葉オープンイノベーションラボ」「豊島八百万ラボ」「ソウルメトロ・ノクサピオン駅デザイン改修」「ナインアワーズなんば駅」など。

主な受賞に、2015年日本建築学会作品選集新人賞 JID AWARDS 2015 大賞 第15回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 出展 特別表彰

著書に、『シェアをデザインする』、『シェア空間の設計手法』

前田昌弘

京都府立大学大学院 准教授

1980年奈良県生まれ。京都大学大学院博士後期課程修了後、京都大学助教、講師等を経て2019年から現職。専門は建築計画、住居・まちづくり。関西の住まい・まちづくりから国内外の災害復興、コミュニティ支援まで、研究と実践を行っている。主な著書に「津波被災と再定住」（京都大学学術出版会、2016年）、「建築フィールドワークの系譜」（昭和堂、2018年）、受賞に日本建築学会奨励賞、都市住宅学会著作賞、住総研研究選奨など。

門脇耕三

明治大学 准教授、アソシエイツパートナー

1977年神奈川県生まれ。2001年東京都立大学大学院修士課程修了。東京都立大学助手、首都大学東京助教などを経て現職。現在、明治大学出版会編集委員長、東京藝術大学非常勤講師を兼務。第17回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展にて日本館のキュレーターを務める。専門は建築構法、構法計画、建築設計。

著書に『ふるまいの連鎖：エレメントの軌跡』（TOTO出版、2020年）、建築作品に《門脇邸》（2018年）、受賞に日本建築学会作品選奨（2020年）など。

鈴木亮平

特定非営利活動法人 urban design partners balloon 理事長

1986年東京都生まれ。2011年東京大学大学院修士課程修了。学生時代に balloon を設立し、2012年に法人化。都市計画・まちづくりのコンサルタントとして、主に自治体からの業務を受託。地域住民や民間事業者とまちづくりプロジェクトを立ち上げ、企画・運営にも携わる。株式会社バルーン代表取締役。株式会社ろじまる取締役。株式会社 MeHiCuLi 代表取締役。NPO 法人香取市自助・互助ステーション理事。東京大学大学院非常勤講師。

山道拓人

株式会社ツバメアーキテクト 代表取締役

1986年東京都生まれ。株式会社ツバメアーキテクト代表取締役。建築を作る「デザイン」と、建築の前後を考える「ラボ」の二部門で活動している。2009年東京工業大学卒業/2011年同大大学院修了（塚本由晴研究室）/2018年同大大学院博士課程満期退学/2012年 ELEMENTAL(チリ)勤務/2013年ツバメアーキテクト設立/横浜国立大学大学院 Y-GSA 非常勤教員、東京理科大学 非常勤講師などを経て、現在、江戸東京研究センター客員研究員、住総研研究員、法政大学兼任講師なども務める。

小川さやか

立命館大学 教授

1978年生まれ。京都大学大学院アジアアフリカ地域研究研究科博士一貫制課程指導認定退学。博士（地域研究）。国立民族学博物館研究戦略センター機関研究員、同助教、立命館大学先端総合学術研究科准教授を経て現職。主な著作に『都市を生きぬくための狡知』（世界思想社、第33回サントリー学芸賞）『「その日暮らし」の人類学』（光文社）『チョンキンマンションのボスは知っている』（春秋社、第8回河合隼雄学芸賞、第51回大宅壮一ノンフィクション賞）。

住総研からのお知らせ

○新刊

<すまいろん>

『すまいろん』107号
特集「高層住宅「地」」



一般財団法人 住総研
定価 1000円＋税

『すまいろん』108号
特集「郊外暮らしの再発明」は2月下旬
発行予定です。

<住まい読本 17>

『住まいの生命力』



住総研清水組『住宅建築図集』現存住宅調査研究委員会
発行 柏書房
定価 2200円＋税

<住まい読本 18>

『和室学』



編著者／松村秀一・服部岑生
発行 平凡社
定価 3400円＋税

書籍のご購入について

■「すまいろん」をご希望の方
当財団へ直接お申込下さい。
mail:info@jusoken.or.jp 迄お問い合わせ下さい。
(バックナンバーについても在庫のある分についてはご購入頂けます。)

■「住まい読本」をご希望の方
全国の書店または各ネット書店にてご購入
頂けます。

お問合せ：一般財団法人 住総研
TEL 03-3275-3078

<住まい読本 19>

『おとなのための住まい力』



住総研「おとなのための住まい学」研究委員会
発行 ドメス出版
定価 2000円＋税